

思いでつつながる産直

待望のニューオープン

5月31日、産直まんさくが装いも新たにオープンし、開店から2日間で742組の来場者が訪れました。当日は小雨の降る中、午前9時よりオープンングセレモニーが開催され、生産者らに見守られる中、舟形町観光物産協会の長澤光芳会長ら4名によるテープカットが行われました。午前9時30分のオープンは、開店を待ちわびた人たちが一斉に店内に入り、大盛況でした。アスパラガスやニラなどの地元産の新鮮な野菜と、わらびやふきなどの山菜を目当てに多くの来場者が訪れました。

中でもオープニングイベントのアスパラガスとマッシュルームの詰め放題は、用意していたものがあつという間になくなるなど、会場は活気にあふれていました。

町民の思いを形に

昨年11月に、もがみ中央農業協同組合が経営していた産直まんさくが、経営悪化のため閉店することが生産者に伝えられ、令和6年3月24日をもって閉店しました。

閉店の噂が流れると、お便りなどで「買い物するところがなくなる」「舟形産の米を買うところがなくなる」など多くの方々から何とか継続して欲しいという意見が役場に寄せられました。

そして、1月には生産者組織「産直まんさくの会」から町と町議会に、まんさく存続の支援を願う要望書が提出されました。町議会はその要望を受け、町に対し実現に向けた協力と支援を要望しました。

その後、関係者で存続方法を検討したところ、舟形町観光物産協会より、同協会が施設の管理運営を担い、生産者組織がテナントとして入る経営体系を提案されました。株新庄丸果青果も会員として参加することになり、季節ごとに生産者のいない野菜や果物を出品してもらうことで、品ぞろえの良い産直に生まれ変わりました。

生まれ変わった産直まんさくがオープンしました。わたしたちの地元の「みんなの産直」を応援しましょう。

幅広い品ぞろえ

地元野菜から普段使いの野菜・果物・生花まで

わらびなどの山菜
アスパラガスやきゅうりなどの旬の野菜、米
笹巻などの加工品も

最上・山形をぎゅっと

最上地域・山形県内のおいしいものを

(有)山口畜産(最上町)の牛肉(ガッキー・すじ肉)
(株)アイオイ(鮭川村)の鶏肉(冷凍焼鳥串)
(株)半澤鶏卵(天童市)の濃厚な卵

産直まんさく

営業時間 午前9時30分～午後5時30分

定休日 毎週水曜日

☎(29)5370 Fax(29)5371

より利用しやすく

子どもから高齢者までどなたでも使いやすく

新しい看板の設置、トイレの改修、
照明の交換、駐車場の線引き、
進入路の段差解消

みなさんの応援を

産直まんさくがニューオープンするにあたり、より快適に利用してもらうために、トイレの改修、照明の交換、駐車場の線引き、進入路の段差解消などを行いました。

これからは、定期的にイベントを開催し、少しずつ魅力ある店づくりを進めていきます。また、新聞やラジオでの宣伝や、SNSでもイベント情報の発信に努めていく予定です。

産直まんさくは3年を目標に黒字化を目指してスタートしたばかりです。経営継続には、生産者の生産と販売への意欲はもちろんのこと、来場してくれるみなさんの協力が不可欠です。身近なお店としてぜひ活用いただき、産直まんさくを応援してください。

▼問い合わせ

舟形町農業振興課農政企画係
☎(29)0947

生産者の思い

経営悪化を理由に、産直まんさくが閉店すると聞いた生産者は一同に驚きながらも、何とか続けていけないかと模索していました。

有志の声掛けで、「産直まんさくの会」の会員による意見交換が行われました。その中で、「今までの体制に甘えていて反省する点もある」「再開するならまたがんばりたい」といった声が聞かれました。

町外の人からも再開するなげび参加したいなどの意見が多く出され、5月に新たに「まんさくの会(会長八鍬太さん)」が発足し、会員62名でスタートしました。

町民や県内外からの買い物場だけでなく、何より地域農業の振興発展の拠点として、農業者自らが立ち上がり、オープンにこぎつけました。

